

久美浜学園

学園運営協議会だより



久美浜学園事務局 R7.11.17 【☎82-0079(久美浜中内)】

R7.10.30 第2回学園運営協議会 開催

久美浜学園保幼小中一貫教育も10年目という節目の時期を迎えています。当初、「学校運営協議会」としてスタートしましたが、今年度より「学園運営協議会」と名称を変更しました。また、地域を支える組織・活動についても大きな改善が図られています。地域としても学園としても新しい方向性を見出していく1年として位置づけ、教育・保育を進めているところです。

第1回学園運営協議会は、令和7年5月14日に開催しました。学園運営協議会は、1中学校・3小学校・2こども園・1保育所の教育・保育活動にかかわっていただいている組織・団体から、20名の運営協議会委員によって構成されています。下半期へと向かっていくこの時期に、あらためて本会のことを知っていただくとともに、第2回協議会の様子をお伝えいたします。

本会の目的

学校・保護者・地域住民等が相互に密接に連携し、一体となって学校運営の改善及び地域の特色を生かした学校づくりを進め、幼児及び児童生徒の健全育成に取り組むことを目的とする。

第2回学園運営協議会から

開会行事



前田協議会長あいさつ

本会の役割は「承認」と「熟議」だととらえている。参加いただいた組織や団体、それぞれの活動において感じておられることを交流していただきたい。本会議で熟議された内容については、久美浜の子どもたちに付けるべき力はどうかにかに反映される。本協議会は、久美浜学園の応援団であることを皆様と共に確認したい。

小森学園代表校長あいさつ

園所学校が支援をつなぎながら教育・保育を行っている。そういう中で、学校への行きづらさを示す生徒が減ってきていることは、学園として教育・保育の連携が進んでいることの一定の成果だと考える。予測困難な時代の中で子どもたちにどのような力をつけていくべきか、また、そのための教育はどうあるべきか誠心誠意考えながら進めていかなければならない。本協議会を、地域の皆様の声が直接いただける貴重な機会とさせていただきたい。

久美浜学園の上半期の活動について

杉本学園事務局長

久美浜学園として10年目、学校・保育園・こども園という校種を超えた取組や校区を超えた連携活動を大切にしてきた。各校園所教育相談担当者の研修で、学校に行きづらさを感じている子どもたちをどう支えていけばよいか、スクールカウンセラーから学び一緒に考えることができた。

また、校区を超えた連携活動として、チャレンジ教室・二区子ども広場が合同で亀釣り大会を企画してくださった。年齢も校区も異なる子どもたちが、一緒になって遊ぶ姿が見られた。学校・保育所・こども園それぞれに、地域で学んだり、地域の方から教えていただいたりする機会が広がったことを大変ありがたく、そして大きな成果だととらえている。



グループ協議

久美浜小グループ

○2区子ども広場の取組を月1回続けている。3地区一緒の取組ができるとよい。
○小学校の授業で地域学習があり、如意寺にも訪問がありインタビューが行われた。
○湊地区では子どもが集まっている姿を見なかったが、最近、若者が中心になりたくさんの子どもが参加できる行事を開催できた。
○子どもたちの見守り活動を「子どもウオッチング」のように楽しんでいる方がいる。
○タブレット端末等の利用が進み便利である一方、使用ルールやマナーについて、心配される状況も出てきている。(高等学校)
○OPTA研修会で親子授業の取組が報告されていた。参加者の関心が高かった。親子の距離が近くなるように思った。学園の小学校や中学校で実施できないか。
○「久美浜湾の環境を考え、魚釣りがしづらくなっている。」と聞いた。子どもたちが様々な体験をするために何かできることはないだろうか。



高龍小グループ

○こうりゅう虹こども園、高龍小学校から取り組んでいることや子どもたちの様子について報告。地域とつながる行事や学習に多数取り組んでいる。その中で、地域の方々に支えていただいている実感(安心感)が強い。
○土曜お楽しみ教室はこども園の子どもたちも参加しやすくすることで、小学校での広がりが期待できる。子どもたちの行動や表情から成長を感じる。
○コウノトリについて高龍小で学習されている。地域の特色でもあるのでゲストティーチャー等の協力ができればと思う。
○AIの発展の中で、「人間らしさ」「人のつながり」が重要になっている。子どもたちが地域とつながるような取り組みをどんどん進めていってほしい。
○久美浜町文化祭事業、家庭教育支援事業、青少年育成会、様々な活動により、子どもはもちろん高齢者の方々も含めて、地域全体が元気になってほしい。



かぶと山小グループ

○主体的な学びを育む授業—今言われている「探求的な学び」、つまり自分たちがなぜだろう、知りたいと思ったことを課題に設定して解決していく。湊地区では、若者を中心に、祭りや行事等を企画し、地域の活性化につながっている。その中で、子どもたちに考えさせる活動を取り入れられているが、まさに「探求学習の場」となっている。
○地域と連携した活動として、「5歳児の梨狩り体験」「海岸清掃」…蒲井浜の清掃の後、特別にツリーハウスにも特別に上らせていただいて、海岸の景色を見させていただく中で、漂流しているゴミや海岸の汚れに気づき、「やっぱりこんなゴミ捨てたらあかんね。」と学んだ。
○かぶと山地区として3つの地域が一つになることが定着してきている。湊地区や田村地区の祭りに、他の地区の子も参加し、子どもたちが交流して一つの地域としてできつつある。大人になっても、地域を思える子になってほしい。



閉会行事

太田学園副代表校長あいさつ

地域の活性化が話題となったが、子どもたちのあいさつ一つでも元気が広がる。協議会における熟議を通して皆さんとお話ができること、皆さんがお話しされるのが、大切なことだと感じた。子どもたちのことを一緒になって考えてくださる協議会の存在をありがたく思う。



榎本副協議会長あいさつ

地域において子どもたちを中心とした取組をたくさん聞かせていただいた。予想できないような夏の暑さによっていろいろご苦労があったことと思う。学校では、プログラミングの例があるように、自分たちが学んでこなかったことを教えなくてはならない教育現場の大変さが見えてくる。このような中、久美浜でしか味わえないような経験を子どもたちにさせてやろうという皆さんのお力を今後ともお貸しいただきたい。

